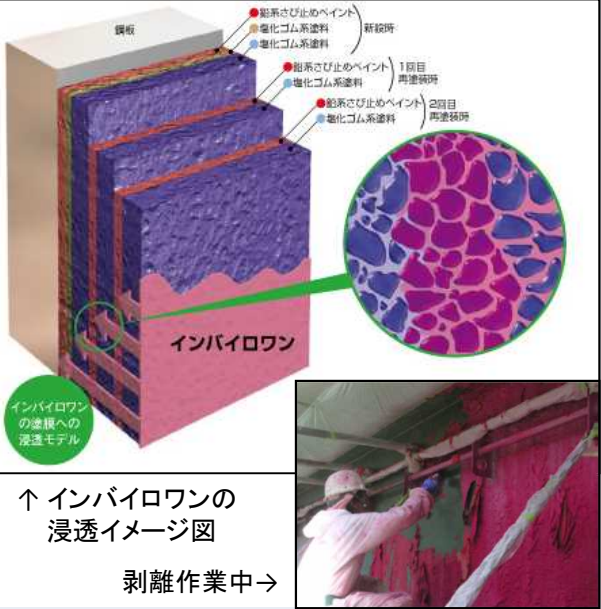
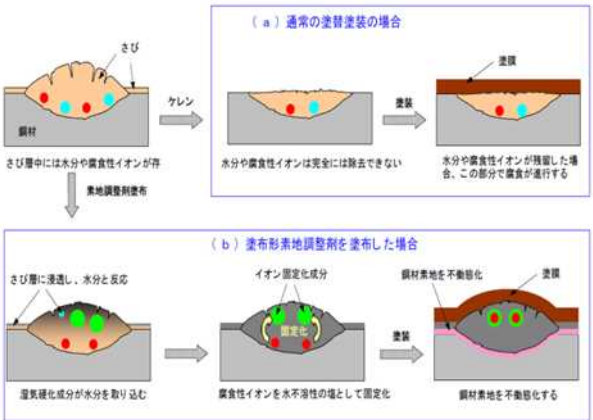



1	2	
KT-060135-V(平成27年度)	KT-060143-VE(平成27年度)	
<p style="text-align: center;">インバイロワン工法 (副題)鋼製橋梁長寿命化のための、 はく離剤による塗膜除去・回収技術</p>	<p style="text-align: center;">塗布形素地調整軽減剤 (副題)物理的素地調整法に変わる塗布形 素地調整剤『サビシャット』(一般用) 『サビシャットスーパー』(塩害地区用)</p>	
<p>本技術は、鉛やPCB等の有害物質を含む塗膜を除去して現場で重防食塗装が可能なる素地を得る工法であり、従来はブラスト工法で対応していた。本技術の活用により、塗膜ダストが発生しないため、飛散防止対策の簡略化、既存塗膜の確実・容易な除去・回収が期待できる。</p>	<p>本技術は、塗布形素地調整軽減剤で、従来は物理的な素地調整法で対応していた。本技術の活用により、素地調整時の粉塵及び騒音の軽減並びに素地調整コストの削減が期待できる。</p>	
<div style="display: flex; align-items: flex-start;">  <div style="margin-left: 10px;"> <p>↑ インバイロワンの浸透イメージ図 剥離作業中→</p> </div> </div>	<div style="display: flex; align-items: flex-start;">  <div style="margin-left: 10px;"> <p>(a) 通常の塗装塗装の場合</p> <p>さび層には水分や腐食性イオンが存 素地調整剤塗布</p> <p>さび</p> <p>クレン</p> <p>塗装</p> <p>塗膜</p> <p>水分や腐食性イオンは完全に除去できない</p> <p>水分や腐食性イオンが残留した場合、この部分で腐食が進行する</p> <p>(b) 塗布形素地調整剤を塗布した場合</p> <p>さび層に浸透し、水分と反応</p> <p>イオン固定化成分</p> <p>固定化</p> <p>腐食性イオンを水不溶性の塩として固定化</p> <p>鋼材素地を不動態化する</p> <p>塗膜</p> <p>鋼材素地を不動態化する</p> <p>腐食性イオン 水分 イオン固定化成分</p> <p>塗布形素地調整剤の防錆メカニズム(一般塗替塗装との比較において)</p> </div> </div>	

平成27年度準推奨技術 概要一覧

1	2	3
KK-050060-VE(平成27年度)	QS-980006-VE(平成27年度)	QS-990022-VE(平成27年度)
<p>ギガショット工法 (副題)ギガショットブラスター機によるコンクリート舗装滑り抵抗値回復</p>	<p>インシチュフォーム工法(INS工法) (副題) 管渠更生工法</p>	<p>SGICP工法 (副題)非開削にて老朽管きよを更生</p>
<p>ギガショットブラスター機内の高速回転するインペラーから、遠心投射で高速にショット玉を打ち付ける工法である。打ち付けられたショット玉により路面が均一な粗面となり滑り抵抗値が回復する。投射されたショット玉及び粉塵は集塵装置により、粉塵と再使用可能なショット玉に分離され、再使用される。吸引粉塵は特殊フィルターを通過して排出される。在来の路面をそのまま処理する為、路面に打ち付けるショット玉以外の材料は必要がない。</p>	<p>老朽化した埋設管渠に対して、筒状に縫製した不織布に熱硬化性樹脂を含浸し、水圧若しくは空気圧にて既設管渠内に反転、又は引込みにて挿入後、温水或いは蒸気にて樹脂を硬化させ、管渠内に新しい管渠を形成する技術。</p>	<p>SGICP工法は非開削にて下水道管きよを始め多くの管路を非開削で改築・修繕する技術である。管きよの形状に合わせて工場で作成し、熱硬化樹脂を含浸させ現場に運搬し、タワーによる反転、反転機による反転、ウインチによる引き込みを選択してライニング材を管きよ内に挿入し、温水にてライニング材を硬化させる。硬化したライニング管は自立管としての強度、耐久性に優れ、耐震性を有し、地盤沈下等による管路の動きに追従するものである。全国で1200km以上の実績があり更生工法では、最初に国土技術開発賞を受賞した技術である。</p>
 <p>TNギガショット施工中の列目</p>  <p>集塵機より粉塵排出</p>	<p>施工状況→</p>  <p>施工後 管内状況↓</p>	 <p>写真-1 円形樋管更生</p>  <p>写真-2 矩形樋管更生</p>
 <p>図-1 ギガショット機構造図、施工編成図</p>		 <p>本管 ライニングシステム</p> <p>図-1 下水道本管及び取付管一体化更生技術</p>

平成27年度準推奨技術 概要一覧

4	5	6
KK-020061-V(平成27年度)	CB-070019-V(平成27年度)	HR-990117-VE(平成27年度)
アダムウォール	GTフレーム工法 (副題) ジオグリッドおよび短繊維混合補強砂を用いたのり面表層保護工	RCネット工法(高エネルギー吸収型落石防護網) (副題) 高いエネルギー吸収性能を有する落石防護網工
<p>ジオテキスタイル(アダム)により補強された盛土と壁面材とを排水層を介して一体化させた二重壁構造を有した補強土壁工法。「壁面勾配の調整」「壁面あと施工による壁面変形の抑制」「センサー機能による盛土の健全度評価」「壁面の補修・取替え」等が可能な、多機能な補強土壁工法。</p>	<p>GTフレーム工法は、ジオシンセティックスを利用した新しい吹付のり枠工法です。のり面・斜面に連続したジオグリッドを格子状に設置し、短繊維混合補強砂を吹付けてのり枠を造成することにより、「補強性能」と「環境性能(全面緑化)」を兼ね備えたのり面保護工となります。</p>	<p>金網・ワイヤロープ・ロックアンカー及び2種類の緩衝金具で構成されており、落石のエネルギーを緩衝金具とワイヤロープの摩擦エネルギーで吸収する特性を持ち、最大落石重量200kN(約20t)、最大落石エネルギー約8,000kJまで対応可能となっている</p>
  <p>アダムウォールの構造</p> <p>施工状況(アデムの敷設)</p>	 <p>【構成図】</p> <p>変形土(短繊維混合補強砂)</p> <p>ラミネーション</p> <p>養生基材</p> <p>のり枠</p> <p>ジオグリッド(GTフォーム)</p> <p>L型アンカー(GTアンカーⅠ) (のり枠交差点)</p> <p>L型アンカー(GTアンカーⅡ) (のり枠スレスレ交点)</p>	 <p>端末緩衝金具+アンカー</p>  <p>クロス緩衝金具</p>
  <p>施工事例(標準タイプ)</p> <p>施工事例(壁面あと施工タイプ)</p>		 <p>活用事例 (ポケット式)</p>